

# 社会福祉士国家試験対策とその支援の実績と課題

## － 2022 年度受験者へのインタビューを通して－

浜 内 彩 乃  
倉 崎 彩 乃

キーワード：国家試験対策、社会福祉士、勉強への姿勢

本研究は、2022 年度に行った社会福祉士国家試験対策とその支援においてより有効的な手立てを検討することと、その支援が学生の受験に対する姿勢や気持ちにどのように影響を及ぼしたのかを明らかにすることを目的に、第 35 回社会福祉士国家試験を受験した卒業生にインタビュー調査を実施した。分析の結果、(1)大学での受験対策支援、(2)勉強を行う上でのモチベーション、(3)受験期の気持ちの変化について 3 つの大カテゴリーが生成された。3 大カテゴリーに共通し、〈1 人じゃない〉〈友達との繋がり〉など友達関係に関連した小カテゴリーとして生成されたことから、友達関係が受験勉強における重要な役割を担っていることが示された。また、教員との関係性も重要であり、学生と教員が顔を合わせる環境を整えることが国家試験対策において重要であることがわかった。しかし不合格となった学生へのアプローチが今後の課題とされ、教員が学生の状況を察知し、コミュニケーションを図る仕組み作りの必要性が示された。

### I. はじめに

社会福祉士の国家試験は、1989（平成元）年に第 1 回目が行われ、以後、年に 1 回実施されている。社会福祉士の国家試験受験資格を取得する方法は 12 ルートある。そのうち通常、大学で受験資格を獲得する学生は、卒業年次である 4 年生の 2 月上旬に受験資格取得見込みで受験する（以下、福祉系大学等ルート受験とする）。試験では全 150 問が出題され、合格するためには、問題の総得点の 60％を基準として問題の難易度で修正された点数以上の得点を取り、かつ全試験科目において得点を取る必要がある。厚生労働省（2023）が発表した第 35 回社会福祉士国家試験学校別

合格率によると、この福祉系大学等ルートは全国で 235 校あり、受験者受験資格獲得校全体の 49.2％を占め 12 ルートの中で最も受験者数が多い。これらの大学はそれぞれ社会福祉士の国家試験合格に向け、独自の対策に取り組んでいる。

京都光華女子大学（以下、本学）では 2007 年に実施された第 19 回の社会福祉士国家試験より福祉系大学等ルートでの受験生が在籍し、2018 年（第 30 回）から受験対策支援を強化した。具体的には、4 年次の国家試験対策の授業として社会福祉学特講の開講、自主勉強会の実施、複数回の模擬試験の実施、外部講座の受講などである。これにより本学の合格率は 30％を超えて推移するようになった。

そして、2020 年度より京都光華女子大学社会福祉専攻（以下、本専攻）では、さらに合格率を向上させるため 1 名の専任教員が主となり、国家試験対策とその支援を行うことにした（以下、国試担当教員）。しかし 2020 年度から新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したため、オンライン資源（YouTube や ZOOM、光華 navi）を活用しつつ、既存の国家試験対策やその支援を組み合わせた新たな国家試験対策とその支援方法を模索した（浜内と西川, 2021; 浜内と西川, 2022）。その結果、第 34 回の国家試験で合格率が 46.2％（全国平均 31.1％、新卒平均 52.4％）となり、新卒合格率平均には手が届かなかったものの本学の歴代最高値となった（表 1）。

しかし、2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での実施を予定していたものを急遽オンライン資源に切り替えるなど、合格率を上げるため対策よりも感染拡大予防の対策を優先せざるを得なかった。2022 年度は、感染拡大予防対策を取りつつも、予定を変更しなければならない事態は発生しなかった。そのため、合格率を上げるための対策をおおむね実行することができたといえる。その結果、第 35 回

の国家試験で合格率が68.2%（全国平均44.2%、新卒平均65.0%）となり、新卒合格率平均を上回り、本学の歴代最高値を更新した（表1）。これまで手が届かなかった新卒合格率平均を上回ったことや、第35回の合格基準90点に対し、合格者15名のうち14名が100点を上回る得点であったことから、本学の国家試験対策とその支援方法が功を奏したといえる。

本論では、2022年度に行った国家試験対策とその支援が学生の国家試験に対する姿勢の変化や受験勉強にどのように影響を及ぼしたのかについてインタビュー調査を実施し、筆者らが行った過去の調査と比較しながら国家試験対策とその支援においてより有効な手立てを検討することを目的とする。

## Ⅱ. 本学での2022年度の国家試験対策の取り組み

本章では、本専攻で2022年度に行った国家試験対策とその支援について説明を行う。なお、本論で用いる「オンライン資源」とは、インターネットにつながっている状態で用いる国家試験対策とその支援を指す。「オンライン資源」は、主にYouTubeやZOOM、光

華naviとする。また「対面資源」は、学生と直接顔を合わせて実施する国家試験対策とその支援を指し、主に対面での授業や面談等である。

### 1. 社会福祉学特講について

「社会福祉学特講」にはⅠ～Ⅳの4種類があり、それぞれ時期や内容、形態は異なるが、すべて15コマの授業を実施しており、本専攻における国家試験対策の要となっている。2020年度から国試担当教員が1人で担当している。また2021年度からは、授業をすべて録画し授業後から国試当日までYouTubeで何度でも視聴が可能である。そして授業では、2021年度から5回の模擬試験と過去3年分の過去問題の実施と解説を行った。以下、社会福祉学特講Ⅰ～Ⅳの概要を説明する。なお、模擬試験や過去問の解説は150問すべてを行うのではなく、設定した授業回数の中で行える問題数とし、社会福祉学特講Ⅰ～Ⅳを通して全科目の解説をすることを目標とした。

#### (1) 社会福祉学特講Ⅰ（4年次前期）

「社会福祉学特講Ⅰ」（以下、「特講Ⅰ」）は4年次の前期授業期間に週1回1コマ、合計15コマの授業を

表1. 社会福祉士国家試験合格率の推移

年度	国家試験回数	全国合格率	福祉系大学 新卒合格率	本学受験生	本学 合格者数	本学合格率
2006年度	第19回	27.4%	33.3%	65	3	4.6%
2007年度	第20回	30.6%	35.7%	57	9	15.8%
2008年度	第21回	29.1%	39.9%	58	13	22.4%
2009年度	第22回	27.5%	35.0%	38	8	21.1%
2010年度	第23回	28.1%	38.9%	27	8	29.6%
2011年度	第24回	26.3%	38.5%	20	4	20.0%
2012年度	第25回	18.8%	31.4%	23	1	4.3%
2013年度	第26回	27.5%	41.7%	13	3	23.1%
2014年度	第27回	27.0%	45.4%	18	3	16.7%
2015年度	第28回	26.2%	58.4%	6	0	0.0%
2016年度	第29回	25.8%	46.3%	9	1	11.1%
↓医療福祉学科社会福祉専攻での受験資格取得者↓						
2017年度	第30回	30.2%	54.6%	18	8	44.4%
2018年度	第31回	28.9%	53.7%	14	5	35.7%
2019年度	第32回	29.3%	56.0%	17	6	35.3%
2020年度	第33回	29.3%	50.7%	13	5	38.5%
2021年度	第34回	31.1%	52.4%	13	6	46.2%
2022年度	第35回	44.2%	65.0%	22	15	68.2%

国試担当教員1名が担当し、実施している。前期授業開始前に昨年度の模擬試験問題を実施し、その解説を4コマ、過去問題実施を2コマ、残り9コマは実施した過去問題解説を行った。また、教科書として使用していた『社会福祉士国家試験のためのレビューブック2023』（メディックメディア；第11版、2022）の使い方を徹底した。

#### (2) 社会福祉学特講Ⅱ（4年次前期集中）

社会福祉学特講Ⅱ（以下、「特講Ⅱ」）は、4年次の夏季休暇期間に集中講義として実施している。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したため、急遽15コマの授業をすべてリアルタイムZOOMに変更し実施した。2022年度は15コマを4日間に分け、すべて対面授業にて実施した。2021年度から国試担当教員1名が全ての授業を担当した。内容は、夏休み直前に行った模擬試験の解説に3コマ、過去問の実施に2コマ、過去問題の解説に6コマ、「社会保障」と「心理検査」の講義にそれぞれ2コマずつ実施した。「社会保障」は多くの学生が苦手としており、国家試験問題を解く前に、基本的な知識の確認が必要だったため取り入れた。また心理検査は、実際の検査用紙を用いて体験することで理解を深めることを目的とした。

なお、夏季休暇は8月から9月までの約2か月間であるが、9月は精神保健福祉士や保育士の実習があるため、受講生全員がそろって授業を受けられる日程がなく、8月の毎週月曜日に実施した。

#### (3) 社会福祉学特講Ⅲ（4年次後期）

社会福祉学特講Ⅲ（以下、「特講Ⅲ」）は、4年次の後期授業期間に週1回1コマ、合計15コマの授業で実施している。2021年度から国試担当教員1名がメインで授業を行い、もう1名の専任教員がサポートとして参加している。2021年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防のために15コマすべてをリアルタイムZOOMにて実施したが、2022年度はすべて対面授業で実施した。内容は、後期授業開始直前に行った模擬試験の解説に4コマ、10月に行った模擬試験の解説に4コマ、11月に行った模擬試験の解説に4コマ、過去問題の実施に2コマ、社会福祉士を取得した卒業生に受験の経験談を聞く時間に1コマを使った。

#### (4) 社会福祉学特講Ⅳ（4年次通年集中）

社会福祉学特講Ⅳ（以下、「特講Ⅳ」）は、4年次の

後期授業期間に集中講義として実施している。2020年度から全15コマを国試担当教員が1人で担当している。2021年度から15コマすべてを1月に設定していたが、年末に新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したため、急遽、対面授業とリアルタイムZOOMのハイブリッド形式に変更して実施した。2022年度もすべて1月に設定し、対面授業で12月に実施した模擬試験の解説を3コマ、過去問の解説を12コマとした。

#### (5) 出席率

社会福祉学特講Ⅰ～Ⅳの出席率平均を受講者平均、合格者平均、不合格者平均を表2にまとめた。おおむね80%台後半であるが、合格者平均と不合格者平均で差が大きくなったのは特講Ⅳであり、合格者平均が93.8%であるのに対して、不合格者平均は67.6%であった。

表2. 社会福祉学特講の出席率平均

	特講Ⅰ (前期)	特講Ⅱ (8月集中)	特講Ⅲ (後期)	特講Ⅳ (1月集中)	平均
受験者平均	87.4%	87.2%	85.4%	85.4%	86.4%
合格者平均	86.0%	88.0%	87.0%	93.8%	88.7%
不合格者平均	90.5%	85.7%	81.9%	67.6%	81.4%

## 2. 光華 navi

本学では、学生の学びをサポートする光華 navi というオンライン資源を活用している。光華 navi は、授業の履修登録や時間割の確認、シラバス閲覧の他に、授業の出欠確認、アンケート機能や小テスト機能、課題の提出、学生から担当教員への連絡などが可能である。2020年度から国家試験対策から学生コメントと授業資料の2つの機能を主として用いている。

#### (1) 学生コメント

光華 navi の中には、課題提出のための機能があり、教員が課題を配信し、学生が課題を学生コメントに書き込み提出することができる。そして学生が提出した学生コメントに対して教員がコメントすることができる。2020年度から社会福祉学特講Ⅰ～Ⅳでは、毎回この機能を用いて学生に課題を与え、必ず一週間以内に国試担当教員がコメントを返すこととした。課題の



内容として、社会福祉学特講Ⅰ・Ⅱでは、「模擬試験の振り返り」や「勉強方法」、「今、不安に感じていること」など学生の現状がわかる課題を設定し、社会福祉学特講Ⅲ・Ⅳでは、授業で教員が解説したことから3つを自分の言葉でまとめる課題設定を行った。

#### (2) 授業資料

光華 navi の中には、教員が授業についての連絡事項などを書き込める機能がある。社会福祉学特講Ⅰ～Ⅳでは毎回の授業を録画し、授業後に国試担当教員がYouTubeにアップロードし、限定公開設定をしたURLを授業資料に書き込み、国試当日まで自由に視聴できるようにした。また、国試に重要な資料の提示や模擬試験の点数の公開も学生の個人情報に配慮した形で都度授業資料に書き込み、受験生全員に周知した。

### 3. 外部講座

本専攻では、2つの外部業者の国家試験対策講座を受講できるように支援している。これらは受講必須ではなく、大学の補助金を受けながら、自主的に申し込みを行った学生が自費で受講することができる。以下の2つの講座を合わせて、本稿では「外部講座」とする。

#### (1) 株式会社東京リーガルマインドの外部講座(以下、「LEC」)(4年次5月～7月)

通常LECでは、5月から7月に19コマの講義と、年間3回の模擬試験を実施している。新型コロナウイルスの影響により2020年度は録画配信で、2021年度からリアルタイムのオンライン授業を行い、その録画配信が見られる形となった。模擬試験については、3回ともは本学にて対面で実施した(7月、11月、12月)。2022年度は、社会福祉士国家試験受験者22名全員が受講した。

#### (2) 社会福祉士受験対策セミナー(以下、「対策セミナー」)(4年次10月～12月)

毎年、京都府社会福祉協議会が、社会福祉士受験対策セミナーを開催している。このセミナーは、10月～12月の間に3日間行われている。本専攻では毎年この対策セミナーの受講を学生に勧めており、2022年度は7名が受講し、対面で開催された。

### 4. その他の取り組み

本専攻では、特講Ⅰ～Ⅳと外部講座だけでなく、模

擬試験や自主勉強会を開催し、勉強場所の提供も行っている。またメールや研究室訪問にて、いつでも質問や相談を受けられることを随時提示している。

#### (1) 模擬試験(4年次、7月、9月、10月、11月、12月)

模擬試験については、2021年度より上記で述べたLECの模擬試験3回の他に、外部模試(中央法規出版主催、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催)を2回実施している。全ての模擬試験を社会福祉士国家試験受験者22名全員が受験申込みを行い、体調不良や実習等で当日受験が難しい数名の学生を除いて本学にて対面で受験した。模擬試験実施日に受験が難しかった学生は、2021年度までは自宅受験を認めていたが、2022年度からは別日程にて試験日を設け、本学での受験環境を整えた。

模擬試験の結果は、社会福祉専攻教職員と受験者22名に共有した。また2022年度から、結果が返ってきた際に、得点率が高い問題で誤答していた場合、そこから優先的に見直すように声をかけた。また、4年次が始まる直前の3月に昨年度の模擬試験を使ってプレ模擬試験を受験生全員に実施している。

#### (2) 自主勉強会(4年次)

授業外の時間に、自主勉強会を実施した。自主勉強会は希望者のみ参加できるようにし、対面にて行った。自主勉強会の形式は3つに設定した。1つ目は、実習助手が中心となり学生の苦手科目を中心に週1回90分を使って講義形式と問題の実施や解説等を行うもので、参加率は表3にまとめた。2つ目は、2022年度初の試みで、国試担当教員が中心となり模擬試験で下位の点数を取った学生5人程度に個別に声をかけ、1回の模擬試験につき90分を2回行った。しかし、声をかけた学生以外にも参加をしたいという学生も集まり、最終的に毎回10人程度が参加していた。3つ目は、1月に2回過去問題を実施したもので、受験者全員が参加した。

表3. 実習助手が中心となって行った自主勉強会への参加率

	出席率
全体平均	35.0%
合格者平均	38.9%
不合格者平均	26.7%

### (3) 勉強場所の提供

本学では、学科ごとに「コモンズ」と呼ばれる学生のための共有スペースが与えられている。医療福祉学科コモンズは慈光館5階にあり、言語聴覚専攻と共同で使用することができる。全学年が自由に使用でき、学生らはそこで本を読んだり、雑談したり、勉強したりと様々に活用している。正門が開門されている朝8時30分から23時まで土日や夏季休業期間中など、授業が行われていない時でも、学内イベントや点検等がない限り、自由に使うことができる。コモンズは開放的なスペースに国家試験の問題集や社会福祉にまつわる書籍などが並べられた本棚と稼働式の机と椅子が置かれている。また慈光館5階は、社会福祉専攻教員の研究室があり医療福祉学科コモンズは、教員が頻繁に通るところとなっている。

そして2021年度より、慈光館から少し離れた3号館5階の教室を社会福祉専攻の自主勉教室に設定してもらい、朝8時30分から23時まで土日や夏季休業期間中など、授業が行われていない時でも、国家試験までの間、学内イベントや点検等がない限り、自由に使うことができる。この場所が利用可能であることは受験生だけに伝えており、飲食は可能であるが、原則国試の勉強のために使用するよう伝えている。

その他にも図書館や学習ステーションなど全校生徒が使用できる勉強場所もある。

## Ⅲ. インタビュー調査

### 1. 研究対象者

研究対象者は、第35回社会福祉士国家試験を受験し、2023年3月に京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科社会福祉専攻を卒業した者（以下、卒業生）とする。

### 2. 調査方法

研究協力の同意が得られた卒業生7名にインタビュー調査を実施した。インタビューは、オンライン(ZOOM)にてプライバシーが確保できる個室にて行われた。質問項目は「大学での受験対策支援は有効だったのか」、「社会福祉士国家試験受験勉強中の気持ちの変化」などである。インタビュー時間は60分～90分程度、半構造化面接にて実施した。すべての研究対象

者の承諾を得てインタビューはICレコーダーで録音し、逐語録を作成した。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、京都光華女子大学研究倫理委員会の承認を受けて実施された(承認番号:165)。研究対象者には、予め書面にて説明を行い、趣旨に同意できない場合は辞退が可能であること、インタビューの途中であっても中断、辞退ができることを伝えて行った。一度参加を決め、途中で辞退した場合も、研究対象者が不利益を被ることはないことを説明した。途中で辞退した場合は、それまで収集したデータを分析対象として扱って良いか否か、研究対象者の意向に従ってデータを取り扱うことも予め説明した。個人が特定されないことなどについて説明し、利益相反に関する開示事項はない。

### 4. 分析方法

研究対象者へのインタビュー内容の逐語録を作成し、研究者2名によってカテゴライズ及び、ラベリングによる要点の整理を行った。

## Ⅳ. 結果

研究対象者へインタビュー調査から、カテゴライズ及び、ラベリングを行った結果、(1)大学での受験対策支援について、10の中カテゴリー、49の小カテゴリー、(2)勉強を行う上でのモチベーションについて2の中カテゴリー、8の小カテゴリー、(3)受験期の気持ちの変化について、5の中カテゴリー、14の小カテゴリーが生成された。中カテゴリーへのラベリングを【 】に示し、小カテゴリーへのラベリングを< >に記した。また、得られた語りは「 」内に示す。

### 1. 大学での受験対策支援

大学での受験対策支援について分析を行った結果が表4である。

【光華 navi コメント】では、〈やっつけ〉、〈不要だった〉、〈知識の確認〉、〈教員とのやりとり〉という小カテゴリーにより構成される。〈やっつけ〉は、「やっつけ感」、「項目があるから書かなあかん」という語りから生成された。〈不要だった〉は、「手間でそんなんし

んと勉強したい」、「文字に起こすことが自分的には合ってなかった」という語りから生成された。〈知識の確認〉は、「分かったつもりでも案外わかってないと知れてた」、「復習になっていた」という語りから生成された。〈教員とのやりとり〉は、「わからへんこともすぐに聞ける」、「プラスで覚えた方が良いことを言ってもらえる」という語りから生成された。

【YouTube 配信】では、〈使用頻度〉、〈安心感〉、〈集中の難しさ〉、〈見逃しの補填〉、〈再確認〉という小カテゴリーにより構成される。〈使用頻度〉は、「光華ナビコメントを書く時に見る」、「今度見ると思ったものの、開いたことがない」、「分からへんかった時に」、「初期から見えてました」という語りから生成された。〈安心感〉は、「もう一回観られる安心感」、「自分のペースで出来る」という語りから生成された。〈集中の難しさ〉は、「録画されたのは全く集中できなかった」、「途中で違うこと考えたり一時停止する」という語りから生成された。〈見逃しの補填〉は、「特講で記憶失っても後でもちゃんと勉強できる」、〈再確認〉は、「わからへんところを聞き返せる」、「何回も聞いて覚えるってことがやっぱ動画やったらできる」という語りから生成された。

【特講】では、〈教員1人体制〉、〈再確認〉、〈勉強がわかる感覚〉、〈スイッチが入る〉、〈学習ペースの指針〉、〈追い込み〉、〈受講意識〉という小カテゴリーにより構成される。〈教員1人体制〉は、「聞く人が決まっていたので良かった」、〈再確認〉は、「わかる所は確認、新しい知識はしっかり聞く」という語りから生成された。〈勉強がわかる感覚〉は、「新しい知識と今までの知識が繋がる」、「ひとつ頭良くなったなと思って受けてた」という語りから生成された。〈スイッチが入る〉は、「勉強に乗り気じゃなくても特講受けた後は勉強しとこう」、〈学習ペースの指針〉は、「合格に向けてのプロセスを示してくれていた」、〈追い込み〉は、「授業があつての最後の追い込みが意味を成す」、〈受講意識〉は、「寝ない」、「聞かなかつたら落ちる」、「最初は面倒」、「最低限やる」という語りから生成された。

【模擬試験】では、〈実施の是非〉、〈現状の理解・把握〉、〈試験慣れ〉、〈心構え〉という小カテゴリーにより構成される。〈実施の是非〉では、「定期的にあることは良かった」、「やらないといけないことを確認できた」、「これより多いと見直しが大変」、「ちょっと多い」

という語りから生成された。〈現状の理解・把握〉は、「順位発表で自分の立ち位置が見れる」、「もっとやらないって思ってた」という語りから生成された。〈試験慣れ〉は、「当日は落ち着いて出来たので慣れに関してよかった」、「傾向、問題の出し方を経験できた」、「本番っていう感じで受けてました」という語りから生成された。〈心構え〉は、「授業の蓄積」という語りから生成された。

【自主勉強会】では、〈質問のしやすさ〉、〈友達との繋がり〉、〈基礎からの勉強〉、〈勉強を始めるきっかけ〉、〈集中のしやすさ〉という小カテゴリーにより構成される。〈質問のしやすさ〉は、「今更聞けないことも聞ける」、〈友達との繋がり〉は、「みんなでその場所を共有できる」、「人との会話が減ってて、楽しめる場も欲しかった」という語りから生成された。〈基礎からの勉強〉は、「ゼロから百までやってもらえた」、〈勉強を始めるきっかけ〉は、「国試だ、勉強しないとという気持ちになる」、〈集中のしやすさ〉は、「少人数だったんで集中して聞きやすかった」という語りから生成された。

【対策セミナー】では、〈受講意思〉、〈教員の違い〉、〈良かった点〉、〈悪かった点〉という小カテゴリーにより構成される。〈受講意思〉は、「周りの人が受けるって言ったので受けました」、「いろんな教え方されたら迷うタイプなので（…）受けなかった」という語りから生成された。〈教員の違い〉は、「先生（国試担当教員）って早口なのでやり方が苦手な人は合うかも」、「どっちも同じこと言ったら絶対覚えなきゃいけない」という語りから生成された。〈良かった点〉は、「知らない受験生と勉強」、「総まとめとか追い込み」、〈悪かった点〉は、「ある程度理解してないと何で大事なかわからず終わってしまう」という語りから生成された。

【LEC 講座】では、〈参加状況〉、〈不参加の理由〉、〈受講時期〉、〈わかりづらい〉、〈特講との両立の難しさ〉という小カテゴリーにより構成される。〈参加状況〉は、「1回も受けてない」、「10分だけ」、〈不参加の理由〉は、「良くないと思って止めました」、「先生（国試担当教員）に聞いた方がわかりやすい」という語りから生成された。〈受講時期〉は、「6月は就活で国試の勉強する余裕なかった」、「まだ本腰も入ってない」という語りから生成された。〈わかりづらい〉は、「淡々と喋ってる



だけ」、「解説の仕方覚えられへん」、「教科書を撮ってるので字が見にくい」、「特講との両立の難しさ」は、「(特講と)両方受けると頭がいっぱいになってたと思う」という語りから生成された。

【社会福祉学特講Ⅳ】では、〈実施に賛成〉、〈実施に否定的〉、〈実施の改善策〉、〈緊張感を味あう場〉、〈自分と向き合う体験〉、〈本番同様の練習〉、〈情報収集の場〉、〈不要だった〉、〈最後の詰め込み〉、〈周囲からの影響〉という小カテゴリーにより構成される。〈実施に賛成〉は、「良かった、なんなら少なかった」、「過去問の予定を使って前後の予定を決めました」という語りから生成された。〈実施に否定的〉は、「全員で揃ってやらなくても」、「自分たちが一番やってる3年間を解くのって」、「授業でしなくてもいい」という語りから生成された。〈実施の改善策〉は、「単元をごちゃ混ぜで出す」、「過去問と模擬試験とか」という語りから生成された。〈緊張感を味あう場〉は、「凡ミスがあったので、知らん間に緊張してた」、「自分と向き合う体験」は、「分かっている問題をもう一回読む作業をしかりできた」、「気合い入れ直せる時間」という語りから生成された。〈本番同様の練習〉は、「試験の時間と集中力の練習」、「どれぐらいのペースで150問解ききれるのかわかる」という語りから生成された。〈情報

収集の場〉は、「自分の勉強だけじゃ得られない情報が定期的に入ってくる」、「〈不要だった〉は、「1月はずっと自習したい」、「〈最後の詰め込み〉は、「一時的にでも詰め込むって大事」、「〈周囲からの影響〉は、「周りも頑張ってるから頑張ろう」、「話せる機会を楽しみにしてた」という語りから生成された。

【自習室】では、〈自由に利用できる〉、〈勉強に適さない〉という小カテゴリーにより構成される。〈自由に利用できる〉は、「話し合いながら勉強する人は向いてる」、「〈勉強に適さない〉は、「集中できなくて、自分のしたいようにできてしまう」、「机が合わなくて腰が痛くなる」という語りから生成された。

【コモンズ】では、〈教員との距離が近い〉、〈環境への不満〉、〈人の目がある〉という小カテゴリーにより構成される。〈教員との距離が近い〉は、「先生方が話しかけてくれるのが支え」、「質問できて楽しかった、名前も覚えてもらえた」という語りから生成された。〈環境への不満〉は、「席数が少ない」、「環境音」、「社福（社会福祉士専攻の学生）だけにしたいかった」という語りから生成された。〈人の目がある〉は、「人の目あるし、寝てたらやばい」、「先生がたまに通り掛るので緊張感がある」という語りから生成された。

表 4. 大学での受験対策支援

中カテゴリー	小カテゴリー	語り
光華 navi コメント	やっつけ	・自分の書いたことを覚えてるかって言われたらちょっと厳しいんですよ、やっつけ感がありました。 ・項目があるから書かなあかん
	不要だった	・手間で(…)そんなんしんと勉強したい ・文字に起こすことがあんまり自分的には合ってなかった
	知識の確認	・分かったつもりでも案外わかってないと知れてた ・本腰入ってないからとりあえず復習になってはいた
	教員とのやりとり	・わからへんこともすぐに聞ける。 ・合ってもプラスアルファで、ここ覚えた方が良いつて言ってもらえる
Y o u T u b e 配信	使用頻度	・光華 navi コメントを書く時に一回ぐらい見る ・今度見ると思ったものの、開いたことがない ・分からへんかった時に利用してた ・動画は初期から見ました
	安心感	・もう一回観られるしっていう安心感がある ・自分のペースで出来る
	集中の難しさ	・録画されたのは全く集中できなかった ・途中で違うこと考えたり一時停止する
	見逃しの補填	・特講で記憶失っても後でもちゃんと勉強できる
	再確認	・わからへんところを聞き返せるのでいい ・何回も聞いて覚えるってことがやっぱ動画やったらできる

中カテゴリー	小カテゴリー	語り
特講	教員 1 人体制	・聞きに行く人が決まっていたので良かった
	再確認	・わかる所は自分の確認みたいな感じで聞いたり、新しい知識はしっかり聞いてみたいな感じになった
	勉強がわかる感覚	・新しい知識と今までの知識が繋がる感覚がある ・今日もひとつ頭良くなったなと思って受けた。
	スイッチが入る	・あんまり試験勉強に乗り気じゃないなって日も特講受けた後だともうちょっと勉強しとこうかと思える
	学習ペースの指針	・今の時期はこれぐらいわかってないとか、合格に向けてやっておくべきプロセスを示してくれていた
	追い込み	・授業があつての最後の追い込みが意味を成すかなと思います
	受講意識	・特講とか学校では寝ないって決めてた ・聞かなかったら落ちると思って受けた ・最初は面倒で、こんな受けなあかんのってのが一番 ・ちゃんと受けて理解することを最低限やる
模擬試験	実施の是非	・定期的に試験があることは良かったと思います。 ・一ヶ月に一回あったので、やらないないことを確認できた ・これより多いと見直しがちょっと大変になった ・模試のために勉強方法も変わったりしたのでちょっと多い
	現状の理解・把握	・順位発表で自分の立ち位置がどこにあるのかを見れる ・自分まだ真ん中かみたいな感じで、もっとやらないとって思っていました。
	試験慣れ	・何回も受けたから（国試）当日は落ち着いて出来たので、慣れに関してはよかったです。 ・いろんな傾向、問題の出し方を経験できた ・本番っていう感じで毎回受けてました。
	心構え	・授業の蓄積みたいなので毎回模試は受けてました。
自主勉強会	質問のしやすさ	・今更聞けないことも聞けるし周りの人にも聞きやすかった。
	友達との繋がり	・その時間に集まったらみんなでその場所を共有できる ・人との会話が減ってて、楽しめる場も欲しかった（…）勉強もできるけど、緊張感がほぐれる時間にできてました。
	基礎からの勉強	・ゼロから百までやってもらえたのでためになりました。
	勉強を始めるきっかけ	・「社会保障」が始まると国試だ、勉強しないとという気持ちになる
	集中のしやすさ	・少人数だったんで集中して聞きやすかった
対策セミナー	受講意思	・周りの人が受けるって言ったので受けました。 ・いろんな教え方されたら迷うタイプなので（…）受けなかった。
	教員の違い	・先生（国試担当教員）って早口なのでやり方が苦手な人は合うかも ・どっちも同じこと言ったら絶対覚えなきゃいけないとなる
	良かった点	・知らない受験生と勉強してるっていうのはいい。 ・最後の総まとめとか追い込みとしてはいい
	悪かった点	・大事な部分について詳しくというのは無かったので、ある程度理解してないと何で大事なかわからず終わってしまう
LEC 講座	参加状況	・LEC は 1 回も受けてないです。 ・一回目の授業を 10 分だけ出ました。
	不参加の理由	・全然良くないと思って止めました。 ・先生（国試担当教員）に聞いた方がわかりやすい
	受講時期	・6 月は就活で国試の勉強する余裕なかった ・6 月はまだ本腰も入ってないので、（…）直前なら講座受けてたかな
	わかりづらい	・淡々と喋ってるだけ ・解説の仕方覚えられへん ・教科書を撮ってるので字が見にくい
	特講との両立の難しさ	・（特講と）両方受けると頭がいっぱいになってたと思う



中カテゴリー	小カテゴリー	語り
社会福祉学講Ⅳ	実施に賛成	・良かったと思います、なんなら少なかった。 ・過去問の予定を使って前後の予定を決めてました。
	実施に否定的	・全員で揃ってやらなくても、やってる人はもう頭に叩き込んでる ・自分たちが一番やってる3年間を解くのってなんでだろう ・授業でしなくてもいいと思う。
	実施の改善策	・3年分の同じ単元をごちゃ混ぜで出すとか ・2回くらいかなと思う。過去問と模擬試験とかですかね。
	緊張感を味あう場	・凡ミスがあったので、知らん間に緊張してたと思います。
	自分と向き合う体験	・分かっている問題をもう一回読む作業をしっかりできた ・気合い入れ直せる時間だった
	本番同様の練習	・本番の試験の時間と集中力の練習にもなりました。 ・どれぐらいのペースで150問解ききれののかわかる
	情報収集の場	・自分の勉強だけじゃ得られない情報が定期的に入ってくる
	不要だった	・1月はずっと自習してたい
	最後の詰め込み	・最後に一時的にでも詰め込むって大事
	周囲からの影響	・周りも頑張ってるからあとちょっと頑張ろうっていう気持ちにもなります。 ・話せる機会を楽しみにしてた
自習室	自由に利用できる	・話し合いながら勉強する人は向いてる
	勉強に適さない	・集中できなくて、自分のしたいようにできてしまう ・自習室の机が合わなくて腰が痛くなる。
コモンズ	教員との距離が近い	・いろんな先生方が話しかけてくれるのが支えでした。 ・先生に質問できて楽しかったです。名前も覚えてもらえた。
	環境への不満	・席数が少ない・環境音がある・社福（社会福祉士専攻の学生）だけにして欲しかったな
	人の目がある	・人の目あるし、寝てたらやばい。 ・人が居て、先生がたまに通る掛かるので緊張感がある

## 2. 勉強を行う上でのモチベーション

勉強を行う上でのモチベーションについて分析を行った結果が表5である。

【外的要因】では、〈教員の存在〉、〈楽しい予定を設ける〉、〈大学費用〉、〈不合格と思われている〉という小カテゴリーにより構成される。〈教員の存在〉は、「先生（国試担当教員）がおっしゃることが原動力」、「先生（国試担当教員）が気にかけてくれた」、「先生が教えてくれた」という語りから生成された。〈楽しい予定を設ける〉は、「受験後の約束してその日のために頑張る」、「〈大学費用〉は、「私大に入ってお金を出してもらってる」、「〈不合格と思われている〉は、「周りも受からへんって思ってる」という語りから生成された。

【内的要因】では、〈1人じゃない〉、〈合格する〉、〈取り残される〉、〈資格が欲しい〉という小カテゴリーにより構成される。〈1人じゃない〉は、「自分だけじゃない」、「周りも頑張ってる」という語りから生成さ

れた。〈合格する〉は、「人に合格するって言ってしまった」、「勉強しなくなったら確実に落ちる」という語りから生成された。〈取り残される〉は、「精神の2人に取り残されたくない」、〈資格が欲しい〉は、「資格は何か一つ持っていない」という語りから生成された。

表 5. 勉強を行う上でのモチベーション

中カテゴリー	小カテゴリー	語り
外的要因	教員の存在	・先生（国試担当教員）がおっしゃることが原動力になった ・先生（国試担当教員）が気にかけてくれたこと ・先生が教えてくれたりしたのですごい頑張れました
	楽しい予定を設ける	・受験後の約束してその日のために残り頑張ろう
	大学費用	・私大に入ってお金を出してもらってる
	不合格と 思われている	・周りも受からへんって思ってるやろうから（…）本気出したってもいいかな
内的要因	1人じゃない	・友達がいたこと（…）自分だけじゃない ・周りも頑張ってるから頑張ろう
	合格する	・人に合格するって言ってしまった以上、中途半端なことできへんっていう気持ち ・勉強しなくなったら確実に落ちる。
	取り残される	・精神の2人に取り残されたくない
	資格が欲しい	・資格は何か一つ持っていないといけない

### 3. 受験期の気持ちの変化

受験期の気持ちの変化について分析を行った結果が表6である。そして、中カテゴリーの関係性を示したものが図1である。

【初期】では、〈楽観的〉、〈焦り感〉という小カテゴリーにより構成される。〈楽観的〉は、「危機感が最初はそんなになかった」、「まだあるから大丈夫」、「最初は適当に受けといたらいいや」、「先生についていけば間違いないか」という語りによって生成された。〈焦り感〉は、「自主勉強会が始まってやばいってなった」、「周りの子との差が見えて焦った」、「みんなスイッチが入る中で、自分だけ入らなかった」という語りによって生成された。

【中期】では、〈焦り〉、〈やめよう〉、〈しんどさ〉、〈なんとかかなる〉という小カテゴリーによって構成される。〈焦り〉は、「ずっと点数が変わらなかった」、「熱入ってへんって自分が一番わかる」、「点数取れなやばい」という語りによって生成された。〈やめよう〉は、「やめるんやったら今のうち」、「勉強やめようかなって悩んだ」という語りによって生成された。〈しんどさ〉は、「点数が落ちて気持ちも下がって差が開いてしんどかった」、「どれだけ成長してるのかわからなくてしんどかった」という語りによって生成された。〈なんとかかなる〉は、「まだなんとかかなる」、「点数取れた時はこのままやっていけるかも」という語りによって生成された。

【転換期】では、〈気にしても仕方がない〉、〈周囲の

存在〉という小カテゴリーによって構成される。〈気にしても仕方がない〉は、「点数が全てじゃないので、気にしてても仕方がないなって思った」、「くよくよしても意味ない」という語りによって生成された。〈周囲の存在〉は、「先生（国試担当教員）に言われてスイッチが入りました」、「友達が一緒に頑張りたいって言ってくれた」という語りによって生成された。この時期は、個人差があるものの受験生の語りから、おおむね10月～12月にあたると推定された。

【最終期】では、〈覚悟〉、〈1人じゃない〉、〈大丈夫〉、〈不安〉という小カテゴリーによって構成される。〈覚悟〉は、「後悔せへんように本気でやろう」、「分かるところは絶対落としたいくない」、「ダメかもしれないけど、勉強しないにはならなかった」という語りによって生成された。〈1人じゃない〉は、「みんなが頑張ってた」、「〈大丈夫〉は、「模試で絶対に受からない点数ではなかったからそんな落ち込んだりもしなかった」、「こんだけ勉強したからさすがに伸びてるやろう」という語りによって生成された。〈不安〉は、「落ちたらどうなるんだろう」、「最後まで完璧にはできなかった」、「だめなんじゃないかと思いながら帰ることもあった」という語りによって生成された。

【ベース】では、〈前向きに捉える〉、〈絶対に受かる〉という小カテゴリーによって構成される。〈前向きに捉える〉は、「国試の勉強しんどかったっていうのは1回もなかった」、「楽しみでワクワクしながらやってきました」という語りによって生成された。〈絶対に受

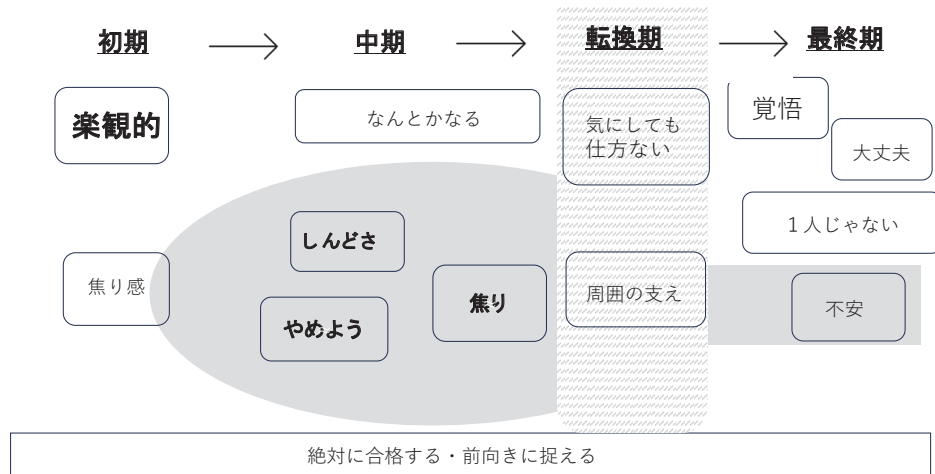


図 1. 受験期の気持ちの変化

表 6. 受験期の気持ちの変化

中カテゴリー	小カテゴリー	語り
初期	楽観的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機感が最初はそんなになかった</li> <li>・まあ、まだあるから大丈夫だろう</li> <li>・最初はもう適当に受けといたらいいや</li> <li>・先生についていけば間違いないか</li> </ul>
	焦り感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主勉強会が始まってやばいってなった</li> <li>・周りの子との差が見えて焦った</li> <li>・みんなスイッチが入る中で、自分だけ入らなかった</li> </ul>
中期	焦り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ずっと点数が変わらなかった</li> <li>・まだ熱入ってへんなって自分が一番わかる</li> <li>・点数取れなやばい</li> </ul>
	やめよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やめるんやったら今のうちや</li> <li>・勉強辞めようかなって悩んだ時期もあった</li> </ul>
	しんどさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんどん点数が落ちて気持ちも下がって差が開いてしんどかった。</li> <li>・自分がどれだけ成長してるのかわからなくてしんどかった</li> </ul>
	なんとかなる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試で抜かされてもまだなんとかなるかなって</li> <li>・点数取れた時はこのままやっていけるかも</li> </ul>
転換期	気にしても仕方がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点数が全てじゃないので気にしても仕方ないって思った。</li> <li>・くよくよしても意味ない</li> </ul>
	周囲の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生（国試担当教員）に言われてスイッチが入りました</li> <li>・友達が一緒に頑張りたいって言ってくれた</li> </ul>
最終期	覚悟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後悔せへんように本気でやろうと思って</li> <li>・自分のやった事、分かるところは絶対落としたくない</li> <li>・ダメかもしれないけど、勉強しないにはならなかった</li> </ul>
	1人じゃない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが頑張ってたから士気高め合ってた</li> </ul>
	大丈夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試で絶対に受からない点数ではなかったからそんな落ち込んだりもしなかった</li> <li>・こんだけ勉強したからさすがに伸びてるやろう</li> </ul>
	不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ちたらどうなるんだろう</li> <li>・最後まで完璧にはできなかった</li> <li>・だめなんじゃないかと思いつつ帰ることもあった</li> </ul>
ベース	前向きに捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国試の勉強しんどかったっていうのは1回もなかった</li> <li>・楽しみでワクワクしながらやってました</li> </ul>
	絶対に受かる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対受かるって気持ちは4月のころから大きかった</li> <li>・受かるって自分の中で思ってたんですよ</li> </ul>



かる〉は、「絶対受かるって気持ちは4月のころから大きかった」、「受かるって自分の中で思ってた」という語りによって生成された。

## V. 考察

過去2回の調査では、合格者の大半が調査協力をしてくれたが、本調査では調査協力者が合格者の半数以下となった。過去2回の調査では、合格発表前に調査についてメールで連絡し、合格発表後に行われる卒業式で合格者・不合格者問わず受験生全員に調査協力について国試担当教員以外が声をかけている。2022年度も事前にメールで連絡をしていたが、卒業式の予定が大幅に押してしまい、受験生全員に声をかけることができなかった。そのため、事前に前向きな返答をしてくれていた学生のみへの声かけとなったことが調査協力者減少の要因であると考えられる。それでも過去2回の調査と同数の調査協力者を得ることができ、考察することは可能である。

本調査では、大学での受験対策支援、勉強を行ううえでのモチベーション、受験期の気持ちの変化についての3つの大カテゴリーが構成された。これらについて考察していく。

### 1. 大学での受験対策支援

大学での受験対策支援では、大学が提供したさまざまな資源について語られたが、多くの資源において肯定的・否定的どちらの小カテゴリーも生成された。その中で、肯定的なカテゴリーのみが生成されたのは、【特講】と【自主勉強会】である。これらは、本専攻の国家試験対策の要となる取組であることから、合格率向上の背景には、国家試験対策の要が有効的に機能していると言える。同時に、この2つは本専攻の教職員が主導となる受験対策指導である。そこで、①教職員が主導となる受験対策支援、②学生が能動的に勉強するための受験対策支援、③外部講師が主導となる受験対策支援に分けて検討したい。

#### ①教職員が主導となる受験対策支援

【特講】では、〈再確認〉〈勉強がわかる感覚〉といった本来の目的である試験のための知識を獲得することについて肯定的に捉えているだけでなく、〈スイッチが入る〉〈学習ペースの指針〉〈受講意識〉といった

学習をするための姿勢を作ることにも役立っていた。また、【自主勉強会】でも〈基礎からの勉強〉という本来の目的だけでなく、〈勉強を始めるきっかけ〉が生成されており、国家試験対策において知識を伝えるだけではなく、特講Ⅰ～Ⅳと自主勉強会を通じて勉強のきっかけを作り、学習の姿勢を形成していくことの重要性が示された。浜内・西川（2021）の研究においても、4年生の4月～7月にかけては【強制力のあるものに頼る段階】であり、学校側が勉強するための時間や勉強内容を設定する必要があるとしている。また、特講Ⅰ～Ⅳの受講率において、合格者と不合格者とで傾向に違いが出た。合格者は、特講Ⅰ～Ⅲの出席率にほとんど差はないが、1月に集中して行った特講Ⅳの出席率が向上している。一方で、不合格者は特講ⅠからⅢにかけて出席率が微減し、特講Ⅳでは大幅に減少している。これは1月の時点で既に合格することを諦めているという現れなのかもしれない。

そして抽出された【自主勉強会】は、学生の語りを鑑みると実習助手が中心となって行った自主勉強会を主としている。そして、その参加率が30.5%と少ないため、〈友達との繋がり〉〈集中のしやすさ〉〈質問のしやすさ〉といった少人数だからこそ生じやすい利点がある。2022年度は社会福祉専攻となって初めて20人を超す受験者数となった。そのため、学生と一緒に調べる、学生同士が教え合うといった「授業とはまた違う勉強の仕方」で行われ、「知識がつく」・「楽しかった」・「覚えやすかった」といった学習の効率化もあった（2022, 浜内・西川）。少人数での学習を求める学生にとっては、より有効に働いたと考えられる。一方で、実習助手が中心となって行った自主勉強会への参加率が、合格者平均（38.9%）と不合格者平均（26.7%）で10%以上差があることから、自主勉強会に行く意欲があり、学習への意欲も高い学生が合格しているということも考えられる。自主勉強会への参加を促し、参加率が高くなると、現在行っている自主勉強会のメリットが損なわれてしまう可能性もある。今後は、自主勉強会以外にも学生の学習意欲を高められる方法を検討する必要がある。

また、特講についても、特講Ⅳだけが【社会福祉学特講Ⅳ】という別カテゴリーとして構成され、〈実施に否定的〉〈不要だった〉といった否定的な小カテゴリーが生成された。特講Ⅳは、受験直前の1月に実施

しており、過去問3回分の実施や、学生らからの質問に答えることを中心に授業を進めた。そのため受験直前にやりたいことが決まっている学生や、すでに過去問3回分を完璧に習得している学生にとっては否定的な内容であったと考えられる。一方、過去問を実施する体験を繰り返すことで、＜緊張感を味わう場＞＜本番同様の練習＞＜最後の詰め込み＞といった試験当日に向けた追い込みができるという側面もある。こうしたメリットを活かし、デメリットを最小限にするためには、＜実施の改善策＞として卒業生が語っているように、過去問3年分の問題を混ぜて出題したり、過去問だけでなく実施済の模擬試験を実施するなどの工夫が有効であると考えられる。こうした特講Ⅳに対する否定的な語りがあっても、【特講】全体としては肯定的に受け取っている。

なお本専攻では、2020年度の特講Ⅱで一問一答を行うことを試みた。しかし、当時の学生らの様子を見ると、過去問3年分や模擬試験の見直し、LECや対策セミナーで教わったことの整理で精いっぱいになっており、そこに一問一答が加わったことで何から手を付けたらいいか混乱した様子が見受けられた。本調査でも、【模擬試験】の＜実施の是非＞の中に「これより多いと見直しがちょっと大変になってた」、「模試のために勉強方法も変わったりしたのでちょっと多い」といった意見が含まれていたように、学生が触れる問題数が多くなりすぎると1問を十分に見直し、理解するところに到達することが難しくなってしまう。卒業生もそのことを感じているからこそ、語りの中で全く新しい問題で本番同様の練習をするという意見は出てこなかったと推察する。

## ②学生が能動的に勉強するための受験対策支援

学生が能動的に勉強するための受験対策支援として【YouTube 配信】【自習室】【コモンズ】がある。学生によって自分に合った勉強方法は異なるため、それぞれに肯定的・否定的な小カテゴリーが生成されたのは当然のことだといえる。またこれらのうち、【自習室】【コモンズ】は学習する場所であり、【YouTube 配信】は勉強する方法である。

まず【YouTube 配信】は、本来の目的である特講Ⅰ～Ⅳで学習したことの＜再確認＞に加え、対面授業でのデメリットを補填する＜見逃しの補填＞や、再度視聴が可能であることにより自分のペースで勉強がで

きることへの＜安心感＞といった小カテゴリーが生成され、学生が能動的に勉強するための意欲へ効果的に作用したと考えられる。オンライン資源への＜集中の難しさ＞は過去2回の調査（浜内・西川, 2021；浜内・西川, 2022）と同様であった。

学習する場所として学生が有効だと考えているのは、＜自由に利用できる＞ことや＜教員との距離が近い＞こと、＜人の目がある＞ことであった。【自習室】と【コモンズ】はいずれも自由に利用できる時間が長い。学習ステーションや図書館なども学生が利用でき、勉強しやすい環境ではあるものの、大学が休みの日や18時以降は利用できないなど、自習室やコモンズよりも制限がある。自宅では勉強に集中しづらい学生や友達と一緒に勉強したい学生は、土日や年末年始でも大学に来て勉強している姿を見聞きする。また気分転換のために勉強場所を時間によって移動している学生もいる。大学は、定期券で通うことができ、かつ無料で自由に施設を利用できるため、在籍学生に平等に与えられた勉強場所である。その上で、学生が勉強したいと思った時に使える場所が自習室とコモンズであるといえるだろう。だが、＜環境への不満＞や＜勉強に適さない＞にあるように、自習室もコモンズも図書館とは異なり、私語は自由である。特にコモンズは、談笑の場として利用されることも多いため、人の話し声が気になる学生には適さないだろう。しかし、そうした＜人の目がある＞ことをメリットに感じる学生もいることから、自分に合った勉強する場所を見極めることが大切である。

## ③外部講師が主導となる受験対策支援

本専攻では、2つの外部講師が主導となる受験対策支援を行っているが、これら2つの資源で調査結果が大きく異なった。【LEC 講座】は、講座に模擬試験3回がセットになっていることから、自主的な申込とはいえ、全員が受講する雰囲気が高く、半強制的な受講となっている。そのため、講義を希望していない学生も受講しており、＜参加状況＞が生成された中には「1回も受講していない」学生もいる。一方、【対策セミナー】は講座のみであるため、＜受講意思＞が生成され、「いろんな教え方されたら迷うタイプなので（…）受けなかった」というように、学生が自身の性格傾向や勉強スタイルによって受講を決定していた。また、【LEC 講座】は5月から7月に実施され、これは受験

期の気持ちの変化の【初期】にあたる頃だと考えられる。そのため、＜受講時期＞にカテゴライズされた語りからわかるように「国試の勉強する余裕な」く、「まだ本腰も入ってない」時期であったと考えられ、＜特講との両立の難しさ＞を感じていた。また、オンライン資源での受講がメインであったことから、YouTube 配信同様＜集中のしづらさ＞や【画面による疲労】などオンライン資源のデメリット（浜内・西川, 2021）も受講継続を難しくさせたのだろう。

一方、【対策セミナー】は10月から12月に実施され、これは受験期の気持ちの変化の【転換期】から【最終期】に該当する頃だと考えられる。そのため、学生の勉強スタイルが定着し、資源を活用する方法についても十分理解できていたのだろう。＜悪かった点＞も「ある程度理解してないと何で大事なかわからず終わってしまう」ことであり、ある程度理解していれば悪い点にならないことが示唆される。特講Ⅰ・Ⅱを受け、受験勉強も進んだこの時期であれば＜良かった点＞である。「最後の総まとめとか追い込み」がより効果的に作用するのだろう。また対面での実施であったことから、【みんなの様子が見れる】などの対面資源のメリット（浜内・西川, 2021）が受講動機を高めたと推測する。

また両方に共通して言えることは＜教員の違い＞について言及されていることである。大学では国試対策教員がメインとなり特講Ⅰ～Ⅳの講義を行う。外部対策講座も講義が主となるため、比較しやすいというのもあるだろう。【特講】でも＜教員1人体制＞が生成されており、誰が講義を行うかは受験生にとって大きく影響していることがうかがえる。教員が1人で国家試験対策の講義を行うことは＜統一感＞や＜慣れ＞といったメリットがある（浜内・西川, 2021）。一方でその教員と合わない場合はどうすることもできないという大きなデメリットも生じる。そのため、外部講座を取り入れることで、学生が自身に合った講師や教員から学習することができる。外部講座をより有効的に活用するためには、実施時期と実施方法を再検討することが必須である。

## 2. 勉強を行う上でのモチベーション

国家試験勉強を行う上でのモチベーションの中で、過去2回の調査（浜内・西川, 2021；浜内・西川,

2022）と異なる結果となったのは＜教員の存在＞が生成されたことである。また＜教員の存在＞を構成している語りからは「先生（国試担当教員）が気にかけてくれたこと」、「先生が教えてくれたりしたのすごいです頑張れました」と、勉強への叱咤激励ではなく、学生を気にかけ勉強を教えるといった学生個人へ教員が寄り添ったことに言及している。

国試担当教員が本学に着任した時期が2020年度4月であり、2020年度、2021年度の受験学生は、国試担当教員との関わりは特講Ⅰ～Ⅳの授業がほぼ初めてという状況であった。そのため、教員との関係づくりは国家試験対策が始まるのと同時期であったといえる。一方、2022年度の受験学生の学年は、実習指導やゼミ指導など、学生生活においても比重が大きいであろう科目を国試担当教員も担っており、国家試験対策が始まる時点ですでに関係ができている学生が多かった。村山ら（2016）の研究では、教員と学生の関係性が学習に影響を及ぼすとしているが、学習意欲へと繋がる可能性が高くなるのは、学生が信頼を置く教員からの称賛であると述べている。また見館ら（2008）の研究でも、「教員とのコミュニケーション」が「学習意欲」に影響を与えているとしていることから、国試担当教員と学生がコミュニケーションをとり、信頼関係が築けていることが重要だといえる。そのため、受験学生となる4年次にのみ関わるのではなく、下級年次の時点で授業や課外活動などを通して、学生とコミュニケーションをとる機会を設けておくことが必要である。

また、本調査ではモチベーションに関して【内的要因】と【外的要因】がほぼ同数で生成された。大学生が主体的な学習を効果的に行う上では内発的動機付けが重要な役割を果たすとされており（畑野・原田, 2014）、本調査の結果とは一致しない。しかし、受験期の気持ちの変化では、受験期の初期から最終期までの【ベース】に、＜前向きに捉える＞＜絶対に受かる＞という気持ちがあった。これは受験に対する内発的動機付けともいえるだろう。勉強に対するモチベーションとして意識されていたことは、【内的要因】と【外的要因】さまざまであるが、受験勉強に対する一貫した気持ちは合格への前向きな気持ちであった。



### 3. 受験期の気持ちの変化

受験期の気持ちの変化は、【初期】【中期】【転換期】【最終期】の4つに分けることができた。これは昨年度の調査と概ね一致している（浜内・西川, 2022）。どの時期も、ポジティブな感情とネガティブな感情の両方が存在しているが、【初期】には＜焦り感＞よりも＜楽観的＞な気持ちが大きく、国家試験に対する現実味が薄いことがうかがえる。【中期】には、模擬試験の点数が伸びないことや勉強に身が入らないことなどから＜焦り＞や＜しんどさ＞といったネガティブな感情が多くなり、国家試験を受けること自体を＜やめよう＞という考えも浮かぶ。しかし＜かろうじて＜なんとかなる＞＞という思いが試験勉強へと気持ちを向かわせた。こうした苦しさから、教員や友達など＜周囲の存在＞によって励まされ、点数が伸びないことや勉強がうまくいかないことに対して＜気にしても仕方がない＞と割り切れるようになる【転換期】が訪れる。そして、試験直前の【最終期】には、＜不安＞を抱えながらも受験に対する＜覚悟＞を決め、これまで勉強してきたことを根拠に＜大丈夫＞だと感じたり、一緒に受験する友達の存在を意識して＜1人じゃない＞と奮い立たせたりしている。この【転換期】を過ぎると、受験に対してネガティブな感情よりもポジティブな感情の方が大きくなる。今回の調査では、【転換期】がどのようにして生じられたのかを明らかにすることはできなかったが、【最終期】でこれまで勉強してきたことを根拠に＜大丈夫＞だと感じていることから、【中期】のネガティブな感情が多くなる時期にもあきらめずに勉強を続け、勉強量やこれまでやってきた自分に対する自信が【転換期】を生成すると考えられるのではないだろうか。そしてネガティブな感情が大きくなる【中期】に、勉強を諦めずにやり続けることができるのは、【ベース】にある＜前向きに捉える＞ことと＜絶対に受かる＞という思いである。

不合格者が特講Ⅳの出席率が大幅に下がることを考えると、不合格者は【転換期】を迎えることができず、ネガティブな感情が大きくなって受験へのモチベーションを保ち続けることが難しかったのかもしれない。光華naviでの課題に、4月の時点で資格取得をする理由や合格への意気込みを記述することを課しているが、4月時点から受験学生の資格取得に対する内的動機付けを高めるための働きかけを行うことが重要

であるといえる。

### 4. 総合的な考察

大学での受験対策支援、勉強を行ううえでのモチベーション、受験期の気持ちの変化についての3つを大カテゴリーとしたが、どのカテゴリーにも＜1人じゃない＞＜友達との繋がり＞といった一緒に受験する同級生との関係について言及した小カテゴリーが生成されており、友達関係が受験勉強をする上での大きな支えとなっている。過去の調査では、オンライン授業がメインになった時期には対面授業のメリットとして【みんなの様子が見れる】ことがあげられており（浜内・西川, 2021）、国家試験勉強において＜友達と勉強＞することが効果的だったとされている（浜内・西川, 2022）。

また、＜教員との距離が近い＞＜教員の存在＞＜周囲の存在＞と、教員の存在について触れている小カテゴリーも3つの大カテゴリー内全てに生成されている。教員との関係は先に述べた信頼関係だけでなく、【質問のしやすさ】や個別のニーズに応じた【個別対応】も重要である（浜内・西川, 2021）。2022年度から新型コロナウイルス感染症の予防対策が緩和され、これまで設けられていた学内資源における利用時間や利用人数の制限がほとんどなくなった。また、オンライン授業やオンライン会議も減少したことから、教員が大学に出勤する日数や時間が増え、コモンズにいる学生と顔を合わせやすく、また学生も研究室に質問しに来やすい状況となった。

以上のことから、学生同士、学生と教員が顔を合わせやすい環境は国家試験対策において重要であるといえる。特講Ⅰ～Ⅳと自主勉強会が1年間を通して実施することで、個別に連絡を取りにくい学生も学生同士が定期的に顔を合わせる機会となる。また、自主勉強会では少人数の場で教職員に質問がしやすい雰囲気があり、コモンズにいれば自ら質問をしなくても教職員から声をかけることもできる。昨年度の調査の課題として、有効な勉強方法は学生によって異なることを明らかにし、大学がさまざまな勉強方法を学生に提案することが課題であるとした。2022年度は、新型コロナウイルス感染症の予防対策が緩和されたことにより、勉強場所や勉強時間、自主勉強会の方法を広げることができた。

## Ⅵ. おわりに

オンライン資源と対面資源とを組み合わせた新たな国家試験対策とその支援の取り組みは3年目を迎え、目標としていた新卒合格率平均を超えることができた。本専攻の国家試験対策の要となる特講Ⅰ～Ⅳと自主学習が有機的につながり、合格率向上へ寄与している。基礎からの解説や、少人数で学生同士がかかわりながら質問したり、教え合ったりすることは自主勉強会で行い、特講Ⅰ～Ⅳでは学習のペースを作り、受験への意識を向上させている。さらにそれらを補完する役割として、YouTube 配信や外部講座も学生が自由に活用することができる。また長く勉強できる場所も増え、学生同士がつながりを持ち、教員と学生も関係性を築きやすい環境が整ってきた。特講Ⅰ～Ⅳ以外は、学生が自分の勉強方法に合わせて使用の有無や参加の有無を決めることができるようにしていることから、学生一人一人に合わせたサポートが実現できているといえるだろう。

一方で、不合格になる学生について振り返ってみると、教員や他の学生との関わりが少なかった。合格した学生が【転換期】を迎える時期に、おそらくモチベーションの差ができていたのだろうと思うが、それを教員が察知しサポートを強めることができなかった。今後は、より学生への声かけを増やし、教員と学生が関わりやすい仕組みづくりを作っていくことが課題である。

また、受験者全員に声をかけることができず、調査に前向きな姿勢を見せた学生のみの結果となっていることも否めない。特に大学や教員との関係性も調査への姿勢に影響があると考えられる。調査に後ろ向きな学生に調査を行うことこそが、国家試験対策の改善点を明らかにすることにつながると考えられるが、倫理的配慮の観点から実行は難しく、本研究の限界といえるだろう。

## 引用文献

- 厚生労働省（2023）『第35回社会福祉士国家試験合格発表（参考資料）第35回社会福祉士国家試験学校別合格率』
- 浜内彩乃・西川ゆかり（2021）「社会福祉士国家試験

対策とその支援の実績と課題—2020年度受験者へのインタビューを通して—」京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要, 第59号, 165-176.

浜内彩乃・西川ゆかり（2022）「社会福祉士国家試験対策とその支援の実績と課題—2021年度受験者へのインタビューを通して—」京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要, 第60号, 81-93.

畑野快・原田新「大学生の主体的な学習を促す心理的要因としてのアイデンティティと内発的動機づけ：心理社会的自己同一性に着目して」発達心理学研究, 25（1）, 67-75.

見館好隆・永井正洋・北澤武・上野淳（2008）「大学生の学習意欲、大学生活の満足度を規定する要因について」日本教育工学会論文誌, 32（2）, 189-196.

村上大介・新井志穂・木村涼子・渡辺隆夫・宇月美和・板垣恵子・庄子幸恵・伊藤てる子・鈴木秀樹・作山美智子（2016）「看護学科における国家試験対策指導の実績と課題」東北文化学園大学看護学科紀要, 5（1）, 27-35.

## 参考文献

医療情報科学研究所編集（2022）「社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2023」メディックメディア；第11版

## 謝 辞

本稿は、これまで国家試験対策とその支援に携わっていただいた京都光華女子大学の非常勤の先生方も含めたすべての教職員の力なくしては、完成することができませんでした。特に石井祐理子先生、南多恵子先生、千葉晃央先生、村上貴栄先生には本稿を作成するにあたりご助言をいただきました。そして就職したばかりで大変な中、時間を作り、研究に協力してくれた卒業生に感謝いたします。皆さま、誠にありがとうございました。最後になりましたが、さまざまな葛藤や苦しさがある中でも努力しつづけ、合格を目指した受験生のみなさんに敬意を表します。